

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和2年5月25日現在

今月の重点活動

■担い手 就農に向けた情報収集を支援～夢に一步近づくために～

5月18日（月）県農業大学校野菜・果樹学科2年生（高山市出身）が就農に向けた情報収集を行うため、県指導農業士で（株）アルプス農場 代表取締役の大西洋介さんの経営概要の聞き取りを行った。

当初は、新型コロナによる農大の休校期間を利用し、卒業論文であるパプリカの栽培について、短期の農業体験を行う予定であったが、授業が5月27日（水）に再開されることとなったため、先進農家から栽培技術や経営、販売についての情報収集を行うことになった。

大西さんからは、飛騨地域のパプリカ生産の概要、栽培技術の説明のほか、新規就農する際のアドバイスがなされた。

農大生は説明を熱心に聞き、今回のアドバイスを参考に卒業論文の課題に取り組みながら、就農に向けたビジョンを決める意向であった。

農業普及課では、関係機関と連携し就農希望者の情報収集、長期研修による技術・知識習得、就農後の早期経営安定へとステップアップが図られるよう、各ステージに応じた支援を継続して行っていく。



【熱心に説明を聞く農大生（写真中央）】

多様な担い手づくり

■担い手 あすなる農業塾長、新規登録進む

飛騨管内では現在、高山市8名（受入農家6名）、飛騨市3名（飛騨地域トマト研修所）の長期研修生のうち7名のがあすなる農業塾長の元で研修している。このあすなる農業塾長（新たに就農を目指す意欲のある者に対して技術・知識及び経営管理等を支援する）は、現在飛騨管内で38名登録されており、今回、昨年度と今年度で指導農業士に認定された6名を、新たにあすなる農業塾長として登録する予定である。

今後も、農業普及課では、長期研修生の就農支援に尽力していただけるあすなる農業塾長の登録拡大を行い、研修中の実践研修、就農後の経営安定に向けてあすなる農業塾長及び関係機関と共に支援する。



【塾長登録のための説明】

売れるブランドづくり

■水稲 優良種子の安定生産を目指して

5月13日、丹生川採種生産組合では、田植え間近となり、組合役員やJA等関係機関とともに苗代調査を行った。

当組合では、岐阜県内のみで栽培されている品種「たかやまもち」「ひだほまれ」をはじめ、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」等、重要な水稲種子生産を担っている。

当日は、すべての育苗ハウスを巡回し、苗の生育、病害等諸障害の有無、管理状況を確認した結果、順調に生育しておりいずれの農家も問題なく田植えが実施できる。

今後も農業普及課では、定期的な管理指導や病害虫の発生状況等の情報提供を行い、優良種子の安定生産に向け支援を行っていく。



【苗の状態を確認する関係者】

■水稲 良い苗はおいしい飛騨米づくりの第一歩

飛騨地域では4月上旬から順次水稲の播種作業を行い、田植えのピークを迎える5月中旬まで各地域の育苗ハウスで苗づくりが行われる。

良い苗を作ることが、おいしい米づくりの第一歩であるため、農業普及課では、各地区の育苗ハウスを巡回し、生育状況、病害等諸症状の発生および灌水や温度などの管理状況の確認を実施し、苗に不具合が見られた場合は育苗農家と共に迅速に対策し、健全育苗に努めている。

今後も個々の水稲農家に健全な苗が渡るまで、定期的な巡回と指導を行い、おいしい飛騨米づくりに向けた支援を行う。



【JA担当者と苗の生育を確認】

■夏秋トマト 夏秋トマト 定植にむけた育苗管理技術支援

安定した収量や高い果実品質を確保するためには、定植後のスムーズな根の張りが必要であり、そのため健全な苗を育てることが育苗管理の目的とされている。また、育苗期は生育適温を下回る低温に遭遇しやすいこと、日射量が多い時期でもありハウス内気温が上昇しやすく気温差が大きくなることから、育苗管理には細心の注意が求められる。

農業普及課では、JAひだの営農指導員らと連携し、育苗状況を把握確認するとともに、問題が発生した場合にはその対策に関する技術支援を行っている。



【苗障害への相談対応】

■夏秋トマト 新規就農者 夏秋トマト誘引方法の技術支援

飛騨地域における夏秋トマトの定植最盛期（5月中旬～6月上旬）を目前にした5月8日に、本年度の新規就農者に対し、育苗期の管理、ほ場の灌水装置の設置、誘引方法について助言、技術支援を行った。

特に誘引方法については、支柱（仮）を立て、斜め誘引の仕方を実演し、トマトの樹姿、作業の手順も具体的にイメージしてもらえたようにした。

今後も月に2回程度巡回し、栽培状況を把握するとともにタイムリーな情報を提供していく。



【斜め誘引方法の実演】

■夏秋トマト 青枯れ病定点調査の対応

5月13日に、農業技術センター病理昆虫部の青枯れ病定点調査に同行し、高山市の発生圃場（5ヶ所）で作付け前の土壌サンプリングを行った。

本調査は農水省の委託プロジェクトとして進められており、全国からサンプリングした土壌について、菌密度や病害に対する各種対策、発病状況などの情報を収集・蓄積し、人工知能を活用した効率的な土壌病害診断（作付け前の発病ポテンシャル評価）の実現を目標にしている。

農業普及課では、秋の作付け後の調査にも協力し、得られた菌密度などの情報をもとに、生産者へ次作の病害抑制対策の技術支援を行っていく。



【土壌サンプリング】

■ほうれんそう 無調製出荷で労働力不足に対応

ほうれんそうは調製・袋詰め作業に多くの労働時間を要する。近年の雇用労働力の不足が問題となっており、その対応として、昨年9月から全農岐阜パックセンターが岐阜市で稼働している。今年度も5月17日から飛騨ほうれんそうの調製・袋詰め作業が行われている。

今年度は1日当たりの処理量を昨年実績の2倍近い100箱増やし、ほうれんそうの作付拡大につなげたいと考えている。

パックセンターの取り組みは、ほうれんそうの共同調製モデルとしても期待されているため、農業普及課は採算の合う運営方式を確立するためのノウハウ蓄積に対して支援していく。



【無調製出荷検討会】

■花卉 フラワーフライデー（バラ）で心豊かに

5月22日、飛騨総合庁舎でフラワーフライデーを実施した。フラワーフライデーとは、週末の家族や大切な人と過ごす時間に岐阜の花を添えてもらうために、庁舎職員に花卉を販売する取り組みである。

飛騨でのフラワーフライデーは12月まで毎月実施予定であり、今月はバラを販売した。バラは高山市内の生産者が栽培しており、販売した「サムライ」と呼ばれる品種は鮮やかな深紅の花色で大輪の花を咲かせる。非常に多くの注文（92束）が集まり、飛騨の花卉をPRする良い機会になった。

来月のフラワーフライデーではひまわりを販売する予定である。



【庁舎でバラを販売】